

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 6月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403699		
法人名	株式会社 ホライズン		
事業所名	グループホーム 内郷		
所在地	福島県いわき市内郷高坂町大町27-1 (電話) 0246-45-2021		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年6月4日	評価確定日	平成20年7月1日

【情報提供票より】(平成20年5月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤3人, 非常勤9人, 常勤換算	6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	有()円 ● 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ● 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	0名	要介護2	1名
要介護3	1名	要介護4	3名
要介護5	4名	要支援2	0名
年齢	平均 86歳	最低 72歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さかもと胃腸科内科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設二年を経過した1ユニットのホームであり、周辺には、グループホームやデイサービス事業所等があり、特に同業者との情報交換が行われている。外部評価の結果を踏まえ、改善内容を運営推進会議で報告するなどして管理者を中心にケアサービス等の改善に心がけている。また、利用者のケアマネジメントについては、介護計画に基づいた援助内容が記録からは十分認められず、見直しの際のモニタリング経過も明確でないで、ケアマネジメントのプロセスを踏まえた記録が望ましいと思われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善事項については、具体的に対応方針を記載し、運営推進会議の検討議題とし、委員の意見等を踏まえながら改善に向けて取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、取り組みの事実の記載を明確にされることと、職員全員の取組みが望ましい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 会議実施回数が6ヶ月に1回となっているので、2ヶ月に1回程度定期的に開催し、地域住民の代表者には、特に運営推進会議の意義や役割を十分認識してもらうよう一層の努力を期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 定期的に便りを送付したり、毎月の利用料等の支払いは持参される方が殆どであり、その際にはご家族の意見を聞き、また利用者の生活状況を伝えたり、ホームの行事参加をお願いするなど家族との交流に努めている。また、日常的に最小限度必要なものはホームが立替払いをしており、金銭管理については適正に処理されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流を一層進めるため、地域住民の理解を得ながら、町内会や自治会加入についての取り組みを行なっている。近隣の同業者等の連携は円滑に行なっている。また、ボランティアによるフラダンスを鑑賞したり、介護ボランティアの受入れにも努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で考えた理念であり、それに基づいて利用者がその人らしい日常を送ることが出来るよう工夫を重ねながら支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティングの際には、理念の具体化について話し合い、理解と意識を共有しながら支援にあたっている。特にミーティングの記録からは、管理者から職員への厳しいながら適切なアドバイスがされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での催し物や催事への参加はまだだが、近隣の老健施設やデイサービス、グループホームとの交流を行いながら、町内会への加入について準備を進めている。ボランティアの受け入れは積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については各項目について管理者、ケアマネジャーとともに全職員が理解を共有しながら作成することが望ましい。前回の外部評価の結果については出来るところから計画的に改善を図っていることがうかがわれる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が少ないため、地域との連携等の具体的な効果がまだ見えていないが、外部評価の結果などは報告されている。会議の委員の発言を会議録に具体的に記載することが望ましい。	○	運営推進会議は、現在6ヶ月に1回の開催になっているが、省令に基き2ヶ月に1回が望ましい。行政機関を始め構成メンバーへの積極的な働きかけや、ホームの情報公開、会議内容の充実を図るなど、運営推進会議の意義を十分理解され、委員の参画意欲を促すよう検討して欲しい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は月1回のホーム便りを発行している。利用料納入に訪れる際に、利用者個人の近況を伝えるなどにより、家族からの理解を深める努力をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に家族の来訪が少ないためか不満や苦情などは寄せられていないが、玄関先に意見箱を設置して気軽に意見をもらえる体制はとっている。現在のところ意見箱への投函はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の異動件数は、ケアマネ・常勤職員が各1回と少ない。職員の変更については、期間を置き、すぐに利用者のケアに関わることをせずに、勤務体制を考慮しながら徐々に親しんでいくようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規の職員（パートを含む）については1週間程度のOJT(働きながら訓練をする)研修を行いながら、利用者との信頼関係を築くようにしている。また、外部研修には、管理者、計画作成担当者の積極的参加が見られた。研修内容の伝達も行っており、資質向上に努めている。		外部研修には、一般職員の参加が少ないので、OJT(働きながら訓練をする)以外の研修参加を検討して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の中で同業者との交流や情報交換を行うほか、近隣の親しくしているグループホームと介護サービスの内容や食事のメニューなど日常的な情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	要介護度の高い利用者が多いため、表情等を把握しながら一緒に過ごす心がけている。洗濯物を畳むことや、野菜の下ごしらえが得意な方には、役割をお願いし、一緒に作業をしながら共に支えあう関係作りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活から思いや意向を感じ取りまた、家族からの情報を取り入れながら、ケアに反映するよう努めている。		利用者の馴染みの暮らしを支援するために暮らしの情報を参考にし、願いや支援して欲しいことを具体的に記述するなどを検討して欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れながら計画を作成している。サービス内容が多く詳細に記載されてあるが、生活記録との重複も見られポイントがつかみにくい。		介護計画は、利用者本意の立場から、わかりやすく、安全や健康の視点や、安心して落ち着いた生活を維持するための具体的な指標を掲げることが重要である。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を設定し見直しを行なっている。しかし、計画にあるサービス内容が介護記録に連動して記載されていない。計画と実際のケアとの関連性が把握できないため、現状に即した見直しを行なう際のモニタリングが困難である。	○	援助内容は利用者の課題や目標を達成するための最も有効な方法を吟味し、柔軟な対応が可能な計画と見直しが重要である。援助内容をモニタリングし、計画変更に至るまでの経過を明確にすることが必要であると思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を密にし、定期的な訪問診療も行なわれている。介護計画にも医師の意向を反映させているとのことで、利用者は往診により受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対するホームとして対応できる範囲の具体的な対応指針は作成していないが、個別적으로는利用者、家族、主治医との話し合いは行っている。	○	早い段階から重度化や終末期の医療処置等の対応について、家族や医師等を交えて対応指針を定め、急変時には統一した支援ができるよう日頃から話し合いを行うことが望ましいと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し言葉遣いにも十分留意したり、利用者の羞恥心に配慮し入浴や更衣等には特に注意している。また、個人情報保護に関する法令順守を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がゆったりと自由に過ごせるよう、身体や気分にも配慮し希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は地元のスーパーから購入し、食事の準備や後片付けも利用者の協力を得ながら行なっている。利用者の食事中は、職員は見守りと食事介助に努めている。ただし、入浴介助がない日曜日には、職員も一緒に食事を楽しむようにしている。		食事介助時間は、休憩時間に交替制で食事を取る勤務体制から、止むを得ず、職員は日曜日を除いては利用者と一緒に食事をせず、支援・介助のみを行なっているようである。休憩時間の取得方法についても検討してはどうかと思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は基本的には決めていても、利用者の気分を落ち着かせたり、時間をずらしたりして、希望や状況に合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	洗濯物を丁寧に畳んでいる利用者も見られ利用者の得意分野や好みを把握し、場作りをしながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩等出来るだけ外出の機会を設けるよう努めている。外出が困難な車椅子使用の方には、ラーメン屋さんに来てもらいホームで調理し、外食の雰囲気味わってもらうなどの試みも行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員のさり気ない見守りにより、落ち着いて過ごしており、日中は鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者が防火管理者となり、年2回消防署の指導により定期的に避難訓練を行なっている。地区の民生委員の配慮により地域の避難所の利用も可能となった。ただ、備蓄は行なわれていない。	○	災害に備え、備蓄として最低限の食料や水、また暖房用機器などの準備が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により食事や水分の摂取量を把握し、利用者の状態に応じて支援している。また栄養バランスのとれた食事にするため、栄養士の献立を基にし、栄養管理を行なっている。		高齢者に多い便秘についてのチェック表が独自に作成されていて、こまやかな気配りをしていることがうかがわれる。なお、記入の仕方について検討されれば一層よいと思われる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から食堂・台所・リビングルームへとつながる配置になっており、台所からは浴室、トイレへの出入りも職員の目がいきわたる設計になっている。リビングの外に花壇があって、日当たりも充分である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室の2タイプであるが、シンプルながら利用者の生活履歴を活かした家具や調度品が置かれている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム内郷

記入担当者名 志賀 淳一

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。